

関節モビリゼーション施術 臨床報告 5月度

【股・仙腸関節】

患者氏名	日付	施術関節	効果	詳細
M.Yさん 70歳 (女性)	5/16	股 膝 足	腰背部痛 4→1	施術間隔が空いたこともあり、腰背部痛が増悪。立位姿勢不良が強く、仰臥位での膝屈曲位、股関節可動域制限もあり。股関節のみ施術後、可動域改善し立位姿勢もやや改善。他の術後にさらに改善。
	5/23	仙腸 足	腰背部痛 3→0	立位で、骨盤後傾、膝屈曲位、円背傾向があり。後屈で腰痛増悪、股関節屈曲内転内旋に制限が強いため、仙腸関節の可動不全と判断し施術。仙腸のみ施術でも姿勢改善、後屈での腰痛消失しました。
	5/26	仙腸 股 足	腰背部痛 4→1	強い疲労のため、立位の姿勢不良、膝屈曲位、腰背部痛など増悪。仙腸関節単独でも効果あるが著効には至らず、股、足関節を施術後に症状軽減。再度の仙腸関節への施術で各症状に著効みられました
	5/30	仙腸	腰背部痛 2→1	前回施術以降、腰背部痛が少ない状態が続いていて、外出歩行後でも腰痛再発が最小限にとどまっています。施術後には、腰の左捻り状態が解消し正面に。右偏重の荷重バランスも改善されています。
K.Mさん 86歳 (女性)	5/10	股	腰背部痛 ○	腰背部痛は軽減しているものの、立位では体屈曲状態で、徐々に腰痛増悪してしまいます。股関節の可動域は屈曲内転内旋に制限があり、施術後には制限が改善され、体伸展が容易になっています。
	5/24	仙腸 股	腰背部痛 ○	体幹屈曲位で腰痛、立位継続困難。仰臥位でも股関節軽度屈曲。Fadirfテストで陽性のため、仙腸関節に制限ありと判断し施術。膝立てて左右倒しでの痛みは消失し、可動域改善、股関節伸展した。
	5/31	仙腸	腰背部痛 ○	日常での腰背部痛は明らかに軽減しています（本人実感） 立位継続での腰痛増悪は依然として顕著ですが、仙腸関節術後は腰痛の再発程度がやや少ない、または延長されているとの実感あり。
K.Hさん 83歳 (女性)	5/23	仙腸 足	左背部痛 2→0	立位左荷重、左背部に過緊張あり、バランスがやや不安定。仰臥位で左膝倒しで左背部痛あり、両側仙腸関節モビリゼーション後に、消失。立位姿勢改善し、背部筋の左右緊張差も改善しています。
	5/31	仙腸 足	左背部痛 1→0	立位時に背部痛なく、仰臥位での左膝倒しで左背部にやや痛み。左脇腹の張り感共に、仙腸関節への施術後に消失。端座位で頸部右回旋で右頸部痛は軽減せず。立位の姿勢改善、重心左右差も修正。
N.Tさん 90歳 (男性)	5/31	仙腸	股関節痛 3→2	数日前に突然発生した左股関節痛は、直後は歩行困難。通院するも原因不明。左鼠径部に明らかな膨隆、熱感ほぼ無し。大腰筋走行の上に圧痛あり。可動域テストで異常所見ないものの、低刺激で悪影響の可能性は低いと判断し、腰椎の可動をスムーズにする目的で、仙腸関節を施術。直後、膨隆及び圧痛が減少。左腰の過緊張も緩和。

○：一定の効果、実感あり 2→1：痛みの軽減度合い（本人にとっての最大痛値を5に設定）

Fadirfテスト：仰向けで股関節の屈曲内転内旋方向への可動性を診るテスト。

その他 臨床報告

「効果がでなかった症例」

股関節について、効果がなかった症例はありませんでした。股関節の可動域制限、立位姿勢不良がみられる症例は、効果の程度はあるものの、ほぼ全ての症例で改善がみられました。

ただし、可動域、姿勢など他覚的所見での効果はあったものの、患者本人の改善実感については、やや乏しい例が多くみられました。術前に”ここで動きが引っかけますね”と確認し、術後に”引っかけりがとれて、動き滑らかになりましたね”と確認しても、膝関節に比べ実感が乏しい様子でした。

仙腸関節については、腰痛、背部痛症状への効果は著しくみられました。頸部の側屈、後屈時の頸部痛については、効果がほとんどみられませんでした。一例では、片側の仙腸関節の動きをうまく出せず、頸部痛も解消できなかった症例。一例では、仙腸関節の動きは出せたつもりでしたが、頸部痛は全く変化なかった症例。

酒見自身、セミナーの際に仙腸関節のモビリゼーションを受けて、左頸部痛が解消されて経験があったため、一部症例については、関連痛として治療が行えるものと考えています。今回の症例は、仙腸関節由来の頸部痛ではなかったか、施術技術の未熟さのためかは不明です。引き続き、施術を継続し、他の関節モビリゼーションと併用し、経過観察を続けていきます。

総括

今回のテーマ”股・仙腸関節モビリゼーション”は、知識は勿論のこと、技術の部分が占める比重が大きく、骨をどう動かせばいいのか。が理解できていても、繊細な感覚を必要とし、その習得がとても困難な技術と思います。外崎さんのセミナーでも、仙腸関節ひとつの内容だけでも2時間を要しました。この技術を施術者全員に対して落とし込み、しっかりとした技術の習得を促すには、相応の時間がかかると思われます。

その難しさに比例して、この技術の実用性は非常に高いと実感しています。ほぼ全ての患者に行う汎用性があり、姿勢不良、腰背部痛、股関節可動域制限、頸部痛などに治療効果があり。僕自身の担当症例にはないものでは、肩の可動域制限や痛み、膝関節痛などへも効果があるようです。

仙腸関節モビリゼーションは、特に習得が難しい技術であり、酒見も進藤先生も絶賛練習中ではありますが、その効果の程度、広い適用性から、この技術はオリーブ全体の技術レベル向上の要となり得る技術かもしれないと実感しています。

臨床担当者 酒見